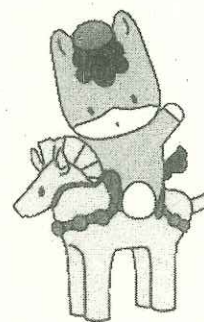


東国文化自由研究レポート



研究テーマ

榛名の噴火と
古代群馬の可能性

提出日 2021年8月27日(金)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 4組 30番

氏名 森村 悠里

1. 研究の動機

古代、群馬には毛野国という日本有数の大国があったという。それは古墳の多さ、大きさから証明される。ただ、その北隣に毛野国に匹敵するような国ができた可能性があったと聞いた。しかしその可能性は自然の脅威のために潰え去ったとも。それら古代群馬の違った歴史の可能性について調べたいと思う。

2. 背景

伊勢崎から西を望むと榛名山のきれいな姿が見える。現代では観光地としても人気の榛名山だが、5~6世紀は何度も噴火するほど火山活動が活発であった。なかでも6世紀初頭と数十年後の2回、大きな噴火があり、その前の噴火(図 I FA)が金井東裏遺跡の、後の噴火(図 I FP)が黒井峯遺跡の原因となった。

※図 I は2回の噴火により土壌の上に降り積もった順を表している。

図 I

土壌		530年頃
軽石等	FP3	
火砕流堆積物	FP2	
火山灰層	FP1	500年頃
火砕流堆積物	FA2	
火山灰層	FA1	
土壌		

3. 調査方法

A. 現地訪問(金井東裏遺跡、黒井峯遺跡)

今回は金井東裏遺跡を中心として調査した。

B. 情報収集(群馬県埋蔵文化財センター、群馬県立歴史博物館)

C. 資料閲覧と解説員の方からの聞き取り調査

金井東裏遺跡



首飾りの古墳人



今は埋め戻され、住宅街



甲を着た古墳人

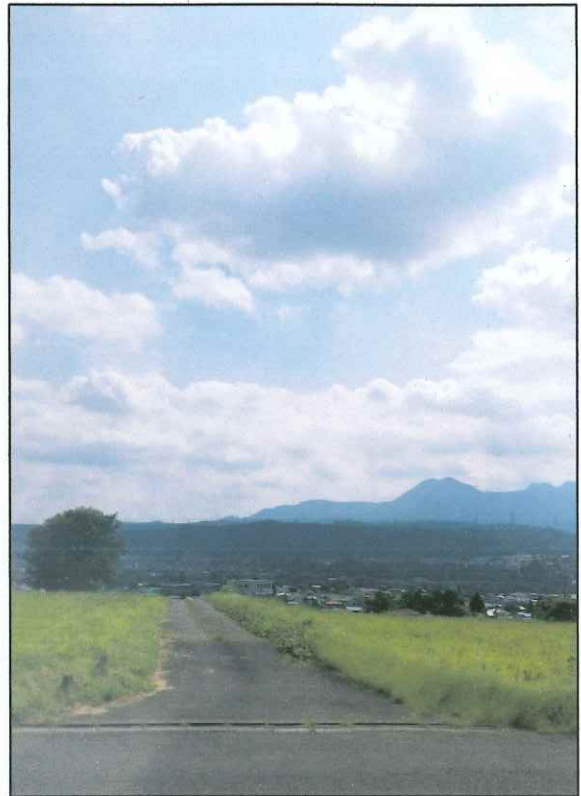


こんな説明がある

黒井峯遺跡



榛名を望む。この位置で埋まるか…



気持ち良いフィールドワーク



説明も興味深い

4. 調査結果

A. 遺跡について

金井東裏遺跡は、榛名山二ツ岳の噴火により埋もれた、6世紀のムラの一つである。(FAによる) 2012年9月、金井東裏遺跡の発掘が始まった。そこでは甲(よろい)を着けたままの人骨が見つかり、世界的な大発見となったのである。(詳細はBに記載する)

遺跡の概要は以下の通り。

時期：6世紀初頭、古墳時代

場所：渋川市金井

主要物：甲を着た古墳人

：首飾りの古墳人

：乳幼児

：馬の蹄跡と人の足跡

：土師器、須恵器

：白玉、勾玉、鉄製器

：赤玉

生成過程 6世紀初頭の榛名山二ツ岳の噴火で、まず火山灰に覆われ(図 I FA1)その後火砕流(図 I FA2)でムラは完全に埋まってしまった。

近隣の遺跡

金井下新田遺跡、中筋遺跡 (FAで埋まる)

黒井峯遺跡、白井遺跡、西組遺跡 (FPで埋まる)

B. 発掘物について

① 甲を着た古墳人

甲(鎧)を着た状態のほぼ全身の人骨が見つかった。甲は古墳の副葬品として良く出土するが、人が着用した状態は全国初の発見であった。

推定年齢40歳代、推定身長は164cmの男性。顔の骨等から、渡来系だと判明した。また、左肩や太ももの筋肉の発達が見られるため、この人物は馬(馬については③にも記載)に乗ることができていたと分かった。この時代にはまだ馬は全国的に普及しておらず、乗馬は特殊技術であり、軍事的指導者であった可能性が大きい。

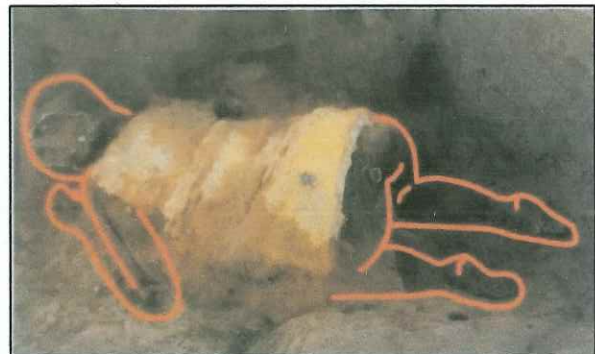
また、身に着けていた甲は、作成に専門技術者が必要な小札(こざね)甲という当時の最新技術を使った高価なものだったため、この人物は有力な支配者だったと考えられる。ここで死亡していなければ、大きな古墳に埋葬されるほどの人物となったかもしれない。



小札甲



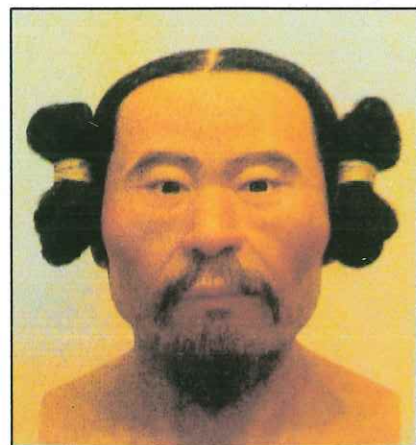
発見された状態



こんな体勢だったようです



→
復元



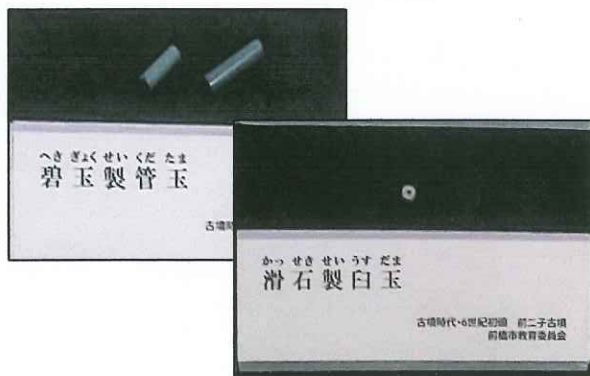
② 首飾りの古墳人

甲を着た古墳人と同じ溝から当時の宝石の首飾りを身に着けた、女性の人骨も見つかった。推定年齢30歳代、推定身長は144cmと小柄で、関東から東北の古墳人の特徴である。

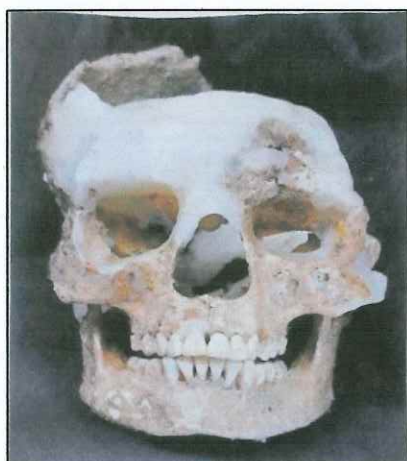
身に着けていた首飾りは複数の碧玉・管玉(当時の宝石)を使い、その原産地は島根県や石川県等の遠隔地であった。いわば高価な輸入品であり、貿易・交流する、ある程度の財力があつたことを示すものである。



発見された体勢



首飾りの材料



→
復元



③ 子ども2人

甲を着た古墳人、首飾りの古墳人以外にも子どもの人骨も見つかった。片方は頭骨の一部だけが残っており、乳児と考えられている。もう一方は頭骨と脚の一部が見つかったのだが、乳歯から永久歯に生え変わる様子から5歳前後の幼児と判定された。

④ 人馬の足跡

火山灰が降り積もった(FA1)上を歩く人の足跡と馬の蹄跡が残されている。並んで続いているものは、人が馬を引いていると思われる。また、単独の蹄の跡もあり、これは人が馬に乗って移動した跡と推測される。人の足跡には子供のものあり、噴火後に大勢の人が馬を連れて火山灰の降った後を非難している光景が想像される。



⑤ マツリ

古墳時代はムラやクニの中心で祭祀を行い、それが政治であり祭りであり生活に大きな影響をあたえるものであった。今回、それをマツリという。

規模の大きなマツリの跡から、土器900点(土師器中心に須恵器19点を含む)、鉄器180点、玉類80点、石製模造品150点、ガラス小玉200点、白玉1万点、小型青銅鏡1点が出土した。

また、用途不明な水に溶けてしまう赤色の土団子「赤玉」120点以上も発見された。



須恵器と土師器



謎の赤玉

⑥ その他

上記以外にも、馬具や武器、農工具、鹿角製品、鉄器素材など、多くの興味深い品々が見つかっている。



馬具(県立歴史博物館)



馬具(埋蔵文化財調査センター発掘情報館)

6. ストロンチウムは語る

人の歯にはストロンチウムという物質が蓄積する。ストロンチウムは元々基盤の岩石に含まれており、そこを通った水などを摂取するとその岩盤特有のストロンチウムが歯に蓄積する。

最近の研究で、その溜まったストロンチウムを分析することでその人がどこで生まれ育ったかを推測できるようになってきている。そこで歯の残っていた三人についてストロンチウムを調べたところ、次のようなことが分かった。

図Ⅱ

	成長地域	顔だちの系統
甲を着た古墳人	長野 南部 伊那地方	中国・朝鮮地方からの渡来系
首飾りの古墳人	長野 南部 伊那地方	東日本
幼児	群馬	

7. 特別な存在「馬」

- A. 古代の日本では、馬は貴重であった。邪馬台国が記載されている中国の史書、魏志倭人伝に倭国(日本)に牛馬はいないと記されている。古墳には多くの馬の埴輪が副葬されている。従って、3世紀には馬はおらず、5世紀頃に渡来人によって伝えられ、6世紀はまだ全国的には広まっていなかったと思われる。
- B. 当時の馬は、移動・運搬、情報伝達や農耕の労働力として、大変重要かつ貴重なものであった。古墳時代の各地の支配者にとって、馬は財力や軍事力をアピールできる特別な価値を持つ動物だったのであろう。



当時の馬と似ている木曾馬

8. 甲を着た古墳人についての考察

- A. 彼は、生まれは日本であったが、顔の造りから父祖は渡来人と思われ先進的な技術を持った集団に生まれたのかもしれない。
- B. その技術は馬の育成であっても不思議ではない。子供時代を過ごした伊那地方は当時の馬の生産地として有名で、近隣の木曾地方は現在でも古代馬の木曾馬(木曾駒)を飼育・保存している。本人の移住と共に群馬の金井の周辺へ馬の飼育の技法を持ち込んだとしても驚くにあたらない。
- C. 金井東裏遺跡の南隣の金井下新田遺跡では人と馬が一緒に見つかり、また仔馬が2頭も含まれていることから、馬の生育地であった可能性は大きい。北方近隣の黒井峯遺跡も馬の育成を中心としたムラであったことはほぼ確実である。同じ渋川市にある白井遺跡にも馬の放牧地が発見されており、この一帯は馬の大生産地であったことは間違いないようであり、高価な鎧をつけ馬具や鏡を持っていることから、彼が馬関連の中心人物であったとしても不思議ではない。
- D. 上記の遺跡たちはすべて2回の榛名山の噴火で埋もれてしまった。この噴火がなければ、金井を中心とした馬の産地は次々に馬を輸出し、年を追うごとに財力が蓄積されていったものと思われる。また、馬によって強い軍隊を作れたかもしれない。これらのことから、冒頭に述べたように甲を着た古墳人は大きな勢力に成長した可能性があり、噴火がなければ大きな勢力をもった有力豪族となり、古代群馬にまた違った歴史を刻んだかもしれなかったのである。

9. 感想

昔群馬は大国であり、大きなムラも多数存在しており、特に金井東裏遺跡での発掘にはここまでかと思うほど驚かされた。人骨がいくつも発見されたこと、それらに甲や首飾りが残っていたこと、さらには当時の情勢から大きな可能性を想像できたこと。今の分析技術はとても素晴らしいもので、研究には必要不可欠だ。そしてそれと同じくらい素晴らしいのは、遺品が地下に保存されていたことである。普通なら地中でこれだけ長い年月を経ていると、腐食してしまってもおかしくない。だがこの遺跡は火砕流堆積物により腐敗が進んでおらず、今日まで綺麗な姿で残っていたのだ。これは、自然が生んだ奇跡ともいえるのではないかな。世界でも稀だ。このように昔を語る品々を保存してくれていた自然に感謝したい。しかし、別の面から見ると、火山の噴火という自然が大きなクニへの可能性を消してしまったのだ。自然は奇跡を起こし、可能性をも消す。人は自然と共存していかなければならないため、奇跡も脅威も理解し覚悟し、付き合っていくべきなのではないだろうか。この研究を通し、歴史と自然について改めて考えさせられ、学ぶことができた。古墳人に感謝！

参考文献

- ・『「埋文群馬」No.64 創立40周年記念号』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
2019年2月28日
- ・公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団『古墳人、現る-金井東裏遺跡の奇跡-』
株式会社上毛新聞社 2019年3月28日
- ・『史跡 黒井峯遺跡-日本のポンペイ-』渋川市教育委員会 2021年3月
- ・群馬県文化振興課『東国文化副読本』群馬県 2021年4月